

軍一秘

自昭和十九年十二月一日
至昭和十九年十二月三十日

陣中日誌

獨立混成第十五聯隊第五中隊

西村

第一陣中日誌ハ左ノ諸部團體ニ於テ作ルヘキモノトス

大本營、各部（郵便部ヲ除ク）（高等司令部）（編制上各部ニ区分ス

ルモノ其各部毎ニ但郵便部ヲ除ク）兵站監部ノ各部兵站司

令部、聯隊、大隊、獨立中隊、砲兵聯隊、段列、堡壘團、獨立

堡壘、獨立砲臺、電信隊、衛生隊、病院、縱列、監視隊、兵馬廠

豫備員、豫備隊、患者輸送部、馬廠

留守司令部及補充諸部隊ニ在テハ右ノ區分ニ應シ留守日誌ヲ

作リ首トシテ第三項乙ニ掲クル項目ニ準シ記載スヘシ

第二陣中日誌及留守日誌ハ諸隊團體動員令及領日ヨリ記載

スヘキモノトス

特別部隊等ニ在テハ先ツ到着セシ將校又ハ同相當官ノカ記載ヲ始

メ後ニ之ヲ主任者ニ移スモノトス

第三之ヲ作ルノ目的ハ左ノ二項ニ在リ

甲 各人若ハ諸部團長ノ經歷若ハ遭遇シタル貴志ヲ記載シ

一ニ戰史ノ用ニ資シ一ニ各人ノ勤務ヲ他日銓衡スルノ參考ニ
供ス

乙 編制教育補充給養衛生武器彈藥器具材料被服

裝具等凡テ軍事ニ關スル事物經驗ヲ録シ將來改良材料ト爲ス

第四甲ノ目的ヲ達センニ在リ諸件ニ注意シテ記載スヘシ

一命令訓令通報(機密作戦日誌記載セザルニ其ノ要領ニテヲ制
裁ニ其詳細ハ該作戦日誌ニルコトヲ附記スヘシ)

二毎日ノ位置(某地ヲ去テ某地ニ留ル等)

三行軍宿營ニ關スル事項

四戰鬪ノ景況(戰鬪願未ラ記載スヘキニ隣接部隊トノ關係及
時機ニ於ケル部隊位置略圖ハ殊ニ明瞭ナラシムルヲ要ス)

五戰鬪間ニ生シタル事件

以上ノ事ヲ記スルニテ時刻ヲ詳記スルコトヲ志ス又以上ノ事ニ關シ

自己ノ部隊ニ影響セシ事項(天候地形險易道路良否人家多少等
類ハ附屬ニ附記セザル可キ)

七人員異動

轉任死傷等將校ノ姓名ヲ録シ下士兵卒及正兵共數ヲ録ス

八休戰中ノ宿營

九野戰作業等施設

十此他凡ソ其一日間ニ生セシ緊要事項

第五 乙ノ目的ヲ達センニ在リ諸件ニ注意シテ記載スヘシ

一武器彈藥器具材料被服裝具等ニ關スルコト

二編制及諸規命令作戦上ニ及ボシタル影響等

三補充給養及衛生ニ關スルコト

四教育及軍紀ニ關スルコト

五非常時機ニ際シテ生シタル非常處置例ハ敵地ニ在テ住

民ニ多額ノ四訓全ク課シタル等

第六 高等司令部諸部隊諸官廳ヨリ到達セル命令訓令通報及之

二送)呈上レ被上レ詳叙其他死傷者... 彈藥損耗表或ハ前哨等
 コリ至レレ報告等ハ凡テ其要領ヲ摘記シテ後ニ低書シテ参照ニ備
 フ(シ) 且各原本ハ複写シテ一摺ニテ保存スヘシ
 被密ニ届動スル特別任務等ニシテ當時之ヲ日誌ニ掲載スル能ハサル
 モト雖モ其妨ナキニ至テハ成ルヘク詳細ニ其顛末ヲ記載スル
 モトス

第七 凡ソ此日誌ハ身日時(順序ヲ逐ヒ)ノ地名トテ明記セサル可ラス
 而シテ諸部團隊員(或ハ各謀兵)ニヨリテ毎日記載ノ結尾ニ捺
 印或ハ押印スヘシ

第八 此日誌ハ諸部團隊復員完結ノ日ヲ以テ終局ト爲シ直
 ニ一本ヲ騰記簿ノ順序ヲ經テ陸軍省ニ原本ハ其部隊ニ格納スヘシ
 陸軍省ハ此日誌中ヨリ所要ノ事項ヲ抄録シテ之ヲ保存シ他ハ皆
 參謀本部ニ送り之ヲ陸軍大臣庫ニ格納スヘシ
 第九 此日誌ハ必ズ陣中日誌ノ巻首ニ貼付スヘシ

第五中隊編成表

中隊		陸軍中尉		西村 又次郎	
計		人員表		班	
張	梅澤	外	次	計	人員表
1	2	3	4	5	6
...
指揮		班		人員表	
...

此日誌中ヨリ所要ノ事項ヲ抄録シテ之ヲ保存シ他ノ部
 參謀本部ニ送リ之ヲ陸軍大庫ニ格納スヘシ
 第九 此日誌ハ必ク津中日誌ニ卷首ニ貼付スヘシ

第五中隊 編成表

中隊長		班 長		班 長		班 長		班 長		班 長	
陸軍中尉	西村 又次郎	陸軍少尉	今本 喜作	陸軍少尉	甚田 喜久二	陸軍少尉	義井 静夫	陸軍少尉	吉岡 栄作	陸軍少尉	松井 良治
陸軍中尉	西村 又次郎	陸軍少尉	今本 喜作	陸軍少尉	甚田 喜久二	陸軍少尉	義井 静夫	陸軍少尉	吉岡 栄作	陸軍少尉	松井 良治

人員表	計	第一小隊										第二小隊										第三小隊									
		連下士										連下士										連下士									
大尉	三八名	陸軍少尉 陸軍少尉										陸軍少尉 陸軍少尉										陸軍少尉 陸軍少尉									
中尉	三	氏 名										氏 名										氏 名									
少尉	一	押野 侯一										甚田 喜久二										吉岡 栄作									
在尉	一	吉 佐田 中 軍 分										男 芳 保 新 軍 分										郎 太 福 濟 中 軍 分									
曹長	二	6 5 4 3 2 1										6 5 4 3 2 1										6 5 4 3 2 1									
軍曹	一一	上 上 上 上 上 上										上 上 上 上 上 上										上 上 上 上 上 上									
伍長	六	藤 田 達 今 峯 岩 川 中 安 西 大 中 福 三 西 菊 崎 倉 林 中 谷 森 高 竹 東 水 升 堂 坂 橋 北 北 山 口 外 次										藤 田 達 今 峯 岩 川 中 安 西 大 中 福 三 西 菊 崎 倉 林 中 谷 森 高 竹 東 水 升 堂 坂 橋 北 北 山 口 外 次										藤 田 達 今 峯 岩 川 中 安 西 大 中 福 三 西 菊 崎 倉 林 中 谷 森 高 竹 東 水 升 堂 坂 橋 北 北 山 口 外 次									
兵長	九	村 末 忠 天 福 人										村 末 忠 天 福 人										村 末 忠 天 福 人									
上等兵	三九	榮 男 吉 三 雄 人										榮 男 吉 三 雄 人										榮 男 吉 三 雄 人									
一等兵	五七	上 上 上 上 上 上										上 上 上 上 上 上										上 上 上 上 上 上									
二等兵		北 北 長 近 高 法 高 坂 中 古 京 永 谷 目 坂 中 中 叶 福 瀧 中 海 新 井 上 坂 谷 木 向 清 水 福 川 洪 二										北 北 長 近 高 法 高 坂 中 古 京 永 谷 目 坂 中 中 叶 福 瀧 中 海 新 井 上 坂 谷 木 向 清 水 福 川 洪 二										北 北 長 近 高 法 高 坂 中 古 京 永 谷 目 坂 中 中 叶 福 瀧 中 海 新 井 上 坂 谷 木 向 清 水 福 川 洪 二									
二等兵		上 上 上 上 上 上										上 上 上 上 上 上										上 上 上 上 上 上									
二等兵		北 北 長 近 高 法 高 坂 中 古 京 永 谷 目 坂 中 中 叶 福 瀧 中 海 新 井 上 坂 谷 木 向 清 水 福 川 洪 二										北 北 長 近 高 法 高 坂 中 古 京 永 谷 目 坂 中 中 叶 福 瀧 中 海 新 井 上 坂 谷 木 向 清 水 福 川 洪 二										北 北 長 近 高 法 高 坂 中 古 京 永 谷 目 坂 中 中 叶 福 瀧 中 海 新 井 上 坂 谷 木 向 清 水 福 川 洪 二									
計	三九名	三九名										三九名										三九名									
計	三三名	三三名										三三名										三三名									

第一中隊	第二中隊	第三中隊	第四中隊	第五中隊	第六中隊	第七中隊	第八中隊	第九中隊	第十中隊	第十一中隊	第十二中隊	第十三中隊	第十四中隊	第十五中隊	第十六中隊	第十七中隊	第十八中隊	第十九中隊	第二十中隊
...

第五中隊 陸軍

西林 又水頂
陸軍中隊

十二月一日
沖繩縣國頭郡
今歸仁村字謝石

受領
井上命第九
號

下達命令

一至五〇〇間天底部落附近ニ於テ養井食料指導ニ係リ對
戰車肉攻、教育ヲ實施ス

一 井上隊日命 第九號 要旨

一 攪混一五作命第七號第三項ニ基テ要員増加セシメ
左如ク明二日一〇〇〇連隊本部ニ集合スル

第六中隊 下士官一

第五中隊 兵一

二中隊命令

陸軍一等兵 前田由太郎

右井日命第九號ニ依リ增加要員トシテ明二日迄

上卷一〇〇〇連隊奉部ニ到ル

乙免 連絡掛下士官 陸軍曹長 藤田美男

命 連絡掛下士官 陸軍曹長 藤田美男

勤務

免 第一分隊長	陸軍軍曹 吉 園 米 作
第三分隊長	陸軍伍長 勝 田 淳
命 第一分隊長	陸軍伍長 勝 田 淳
第三分隊長	陸軍伍長 中 齊 政 盛
頭書、通リ第三小隊連絡掛下士官並分隊長、免命	
部隊日直將校	陸軍少尉 神 谷 秀 雄
日直下士官	陸軍伍長 勝 田 淳
日直上等兵	陸軍上等兵 竹 林 政 雄
部隊衛兵司令	陸軍兵長 中 齊 政 盛
赤哨掛	陸軍上等兵 小 塚 政 吉
赤哨	陸軍一等兵 白 井 保 吉
同	同 北 川 一 雄
同	同 福 田 正 義
同	同 古 岸 義

人員

十二月廿二日

將校以下一三二名

一 自〇八〇〇間中隊舎内ニ於テ神谷少尉以下士官以下全員ニ對シ對戰車内攻ノ學科ヲ實施ス

午後八兵器被服ノ手入環境ノ整理ヲ實施ス

勤務

人員

十二月廿二日

二 陸軍一等兵 前 田 由 太郎

築城材料採ノタメ〇七〇〇早土部隊本部ニ出發ス

部隊日直將校 陸軍少尉 今 本 喜 彦 作

日直下士官 陸軍軍曹 甚 田 喜 久 二

日直上等兵 陸軍上等兵 平 野 辰 太郎

將校以下一三二名

一 對〇八〇〇間各小隊長ノ指導ニ依リ今帰仁校ニ於テ劍術及体操ヲ實施シ一三〇〇ヨリ衛生實施ヲナス

受領
獨立混成
第八二號

獨立混成第五作命 第八二號要旨 十二月三日

聯隊ハ新移駐地、偵察及設營ノタメ一部ハ兵ヲ派
遣セントス

ル第二第三大隊、陣地偵察及先發者派遣ニ關シテハ
別命ス

獨立混成第十五聯隊日命第二五號要旨

受領
獨立混成
第二五號

陸軍軍曹 藤田美男

任陸軍軍曹長 新保宗雄

陸軍伍長

任陸軍軍曹

(以上十二月一日附)

勤務

部隊日直將校 陸軍曹長 關島武男

日直下士官 陸軍伍長 米島豊次

赤哨掛 陸軍上等兵 法花曼 眞明

赤哨 陸軍上等兵 水野助男

同 中西秀雄

同 達 末吉

同 角田勇松

人員

將校以下一三二名

一月四日晴 謝名 御賜煙草 受領

一日朝点呼終了後舍前ニ於テ勅諭奉讀式ヲ行フ

ニヨリ大隊本部前ニ於テ中隊長ハ大隊長ヨリ直接
御賜煙草左記数量受領ス

左記

將校八分 四個

下士官兵一分 一七個

作業

受領

受領
獨立混成
第二六號

人員

訓示
受領
獨立混成
第八四號

三月五日曇
謝名
御下賜煙草
傳達
作業

三〇八〇〇出發各小隊長、指揮ニ依リ協力隊ヲ指揮シ築
城材料蒐集並ニ運搬作業ヲ實施シ六四〇部隊ス

一獨立混成第十五聯隊作命第八三號要旨十二月四日

一旅團ハ新防衛担任地區ニ移駐ス

二聯隊ハ別冊移駐計畫ニ基キ新防衛地區ニ轉移セシム

轉移ノタメ九月別命スルモ十二月十日迄ニ移駐準備

備ヲ完了スヘシ

三各隊ハ別冊移駐計畫ニ基キ新防衛地區ニ轉移ス

ヘシ

四第二大隊ハ座喜味到着後旅團ノ指揮下ニ入ル

二獨立混成第十五聯隊日命第一二六號十二月四日

第五中隊 陸軍准尉 笠 鳥 吉 衛

第四中隊 陸軍曹長 藤 田 美 男

將校以下一三二名

一〇八三〇ヨリ中隊長ハ將校以下一三名ニ對シ御下賜煙草

傳達式ヲ舉行ス

二〇九四ヨリ全買宿營材料ヲ採蒐集及運搬作業ヲ

實施シ一六三〇部隊ス

三移駐ニ際シ旅團長ヨリ別紙訓示ヲ受ケ

獨立混成第十五聯隊作命第八四號要旨十二月五日

一聯隊ハ旅團防衛作戰計畫大綱ニ基キ新防衛担任力

トス

二移駐第一日ハ十二月六日トス

三第二大隊第三大隊長及第二大隊第三大隊各中隊長

新陣地偵察ノタメ十二月七日ハ本部町國民學校ニ集合シ自動車ニ依リ新移駐地ニ先行スヘシ
中隊長ハ下士官一兵ニラ同行セシムヘシ

4. 各隊ハ糧混ニ五作命第八三號別冊移駐計畫ニ依ルハ
各中隊ハ小隊長ヲ指揮スル約一隊ヲ現存備地ニ
残置シ荷物ヲ追送ニ任セシメタル後ヤ荷物ト共ニ成可ク速
ニ新移駐地ニ追及セシムヘシ

5. 本部及各隊ハ携行糧秣輸送ノタメ荷馬車各三ツ配當シ
荷馬車ハ明六日一五〇〇各各路營地ニ交附ノ旨

6. 各大隊ハ新移駐地ニ於テ糧秣其他物品引継ガタメ將
校一ヲ明七日ハ本部町國民學校ニ差出し新移駐
地ニ先行セシムヘシ

7. 今歸仁謝花各兵備地殘留者ニ遺次ヤ荷物ヲ渡讓
久地附近ニ前進セシメテ何物集積後本部町國民學校

ハ藤本中尉ハ殘留者ヲ指揮官トシテ荷物追送ヲ監督スル
ヘシ

9. 予ハ十二月七日ハ渡久地發新移駐地ニ到ル
井上隊長聯命 第四〇號要旨 十二月五日

受領
井上命
第四〇號

ハ聯隊ハ七日期シ新防衛地區ニ移駐ス
ハ大隊ハ九日現在地出發移駐地轉進シタル後旅團ハ
指揮下ニ入リントス

3. 各隊ハ七日迄ニ移駐準備ヲ完了スヘシ
4. 本部各隊ハ左記兵力ヲ殘置シ兵器彈藥糧秣其他ノ
貨物輸送及殘務整理ニ任セシムヘシ

本部 富田主計中尉 野澤衛生部見士
下士官四 兵四

各隊 將校一 約一ケ小隊(中隊長ハ率領)

5. 森岡中尉ハ前項人員ヲ伴セ指揮ヲ部隊本部ニ連
絡シ上前項任務ヲ遂行シタル後速カニ本隊ニ追及
スヘシ

6. 彈藥ノ携行區分ノ開シテハ強混ニ五作命第八三號別冊
ニヨル他左記彈藥ヲ追加ス

イ八九式重擲彈筒榴彈一筒ニ付 一六發
ロ差銃實包 一銃ニ付 一五發

7. 借用物品ノ返済防諜整理整頓ニ特ニ注意ス
ヲ期スヘシ

井上隊作命 第四一號要旨 十二月五日
ハ大隊ハ七日今歸仁警備地ヲ出發行軍ニ依リ新警備
地ニ前進セントス

各隊ハ九日一九三〇迄ニ現續行シタル警戒配備ヲ撤棄シ
今歸仁校ニ集結スヘシ

集合場所 今歸仁校ニ在リ
3. 大門中尉ハ大隊主力ヲ伴セ指揮シ行軍ニ依リ新警備
地ニ前進スヘシ

4. 間片中尉 多崎軍曹
右ハ本輸送間ノ設営ニ任ズヘシ但シ出發時期ハ別命ニ
依リ

5. 本輸送間荷物搭載係トシテ左記兵力ヲ差出スヘシ
大隊本部 下士官一 兵一

各 隊 兵五

6. 軍醫ハ輸送間ノ患者ヲ收容處置ニ任ズヘシ
何馬車ニテ配當ス

7. 九十一日宿營地ハ名護町許田ト予定ス
8. 出發ハ七日ニヨロト予定スルモ別命ニ
依リ

9. 予ハ九日今歸仁校ニ在リ九十一日ハ〇〇現在地發自動

井上命第四
一四

貨車ニ依リ新移駐地ニ先行ス

各隊長關中尉藤井軍曹藤澤上等兵ハ隨行ス

ヘシ

中隊命令

中隊ハ井作命第四〇號第四號ニ基キ新移駐地ニ前

進ス

中隊長ハ新移駐陣地偵察ノタメ下士官一兵ニテ伴ヒ

明後七日現在地ヲ出發ス依テ神谷少尉ハ主力ヲ指揮

シ大間中尉ヲ指揮シ入り明六日一八九三〇整列ニ〇〇出

發新移駐地ニ前進スヘシ

今本少尉ハ下士官二兵ニ面名ヲ指揮シ彈藥糧秣築營

材料ノ輸送及殘務整理ヲナシタル後成可ク速クニ主力

ヲ追及スヘシ

將校以下一三二名

今般旅團主力移駐ノ命ニ接シ茲ニ國頭防衛ヲ第一歩兵隊長ニ

讓リ新ニ南方ノ要地ニ移駐セントス

惟フニ國頭地方ハ過去數ヶ月ニ亘リ旅團ノ全力ヲ以テ之ヲ守備シ

各部隊克ク本職ノ方針ニ從ヒ多數將兵ハ血ト汗トヲ傾倒シ營

ヲ守テ刻苦勵精日夜ヲ分タス作戰ニ染城ニ將ヲ教育訓練ニ邁

進シ今將ニ敵擊滅ノ準備成ラントスルノ秋今日ノ事アル是ニ忍コヘカ

ニナルモソアリ 更ニ思フヘキニ空襲時ニ及ボス時感更ニ切ナルモソアリ

然リト雖軍作戦構想ノ變化ニ伴フ新防衛地區ニ於テ任務ハ更ニ重

大ニシテ旅團主力ノ國頭方面ノ部隊ト共ニ軍ノ重要ナル支作戰ヲ担當シ我

兵團ノ責務ハ益々重キヲ加ヘタリ

諸官ハ駐リテ國頭ノ要地ヲ守備スルト移リテ南方ニ轉スルトヲ期スル

此機ニ臨ミ更ニ新銳ノ氣ヲ振起シ以テ軍令般ノ作戰ニ必勝ヲ期スル

覺悟ナカルハ事カラズ

吾ハ...

殊ニ國軍カ皇國ノ興廢ヲ賭シテ戦ヒツアルノ今日吾人ハ如何ナル難
 事ヲモ甘受シ益々志氣ヲ昂揚シ敵ノ進攻近キニテ想ヒ益々準備ノ
 優越ト訓練ノ精到ト依リ急速ナル作戰準備ノ完成ヲ圖リ一意戰
 勝ノ途ニ邁進スルニ

尚舊地正ニ在ル本職指揮下並ニ逼處下ノ各部隊ハ克ク本職ノ意
 ヲ体レテ或ハ隷下部隊如ク或ハ緊密ナル協同下ニ明朗且カモ敵
 肅ナル軍紀ヲ下克ク本職ヲシテ其任務遂行ヲ容易ナラシメリ茲
 ニ謝意ヲ表スルト共ニ新部隊長ニ對シテモ亦本職同様にシテトシ
 時々ニシテ本島示莫氣ヲ覺ス切ニ將兵健闘ヲ精勵シ

昭和十九年十二月
 獨立混成第四十四旅團長 鈴木繁

謝名

行軍

勤務人員

十一月廿日兩雲
 津島國頭郡
 名護町許田

一 自〇八〇〇間移駐タタノ櫛包ト移駐準備	一 自〇八〇〇間移駐タタノ櫛包ト移駐準備
一 至一三〇〇午後ハ休養	一 至一三〇〇午後ハ休養
二 陸軍一等兵 吉岡直信	二 陸軍一等兵 吉岡直信
右下腿皮下蜂巣鐵炎ノ患ニ依リ入院ス	右下腿皮下蜂巣鐵炎ノ患ニ依リ入院ス
一中隊(神谷少尉以下八四名)ニシテ今歸任校庭ニ整列	一中隊(神谷少尉以下八四名)ニシテ今歸任校庭ニ整列
大隊長代理大尉中尉指揮下ニ入りニシテ今日歸任校出	大隊長代理大尉中尉指揮下ニ入りニシテ今日歸任校出
發第一日宿營地名護町許田部落ニ向ヒ前進ス	發第一日宿營地名護町許田部落ニ向ヒ前進ス
出發當時より獲兩モ拘ラス行軍ヲ續行ス	出發當時より獲兩モ拘ラス行軍ヲ續行ス
日直下士官 陸軍軍曹 中尉 栗 雄	日直下士官 陸軍軍曹 中尉 栗 雄
將校以下一三二名	將校以下一三二名
一〇四〇〇全員ノ事故ナク第一日宿營地名護町許田ニ到着	一〇四〇〇全員ノ事故ナク第一日宿營地名護町許田ニ到着
設營者ノ區署ニ依リ宿營ス	設營者ノ區署ニ依リ宿營ス

受
井
命
第
五
號
領

一井上隊輸送命令第一號要旨

十二月七日
於許田

一大隊ハ現在地ニ於テ大休止セントス

二各隊ハ設營者ノ區署セル處ニ從ヒ大休止スヘシ

三敬言多ク集合場ハ許田橋ヲ先頭トシ建制順ニ集合ス

四空襲ニ際シテハ各隊ハ宿營地附近ニ於テ地形地利

用極力疎開スヘシ

五機關銃一ヶ隊ハ對空射撃部隊ニ任スヘシ

六本日ノ日直將校ハ義井少尉トス

七給與ニ關シテハ本晝食夕食ハ現品支給ヲ受テ發食

一變ヲ宜實施スヘシ 尚明朝食分ハ本夕炊爨セルモノヲ携

行ス

八本夜ノ出發ハ三四〇ト予定スルモ別命ス

九出發ニ際シテハ許田橋ヲ先頭トシ建制順トス

及テハ許田赤山峯才ニ在リ

大隊長代理 大門 中尉

一井上隊輸送命令第一號要旨

十二月七日
於許田

一大隊ハ三四〇許田ヲ發シ谷茶ニ向ヒ前進セントス

二各隊ハ三四〇許田橋ヲ先頭トシ建制順序行軍隊形ニ

集合スヘシ

三本日ノ日夕點呼ハ八三〇トス

四各隊日直下士官ハ防護火災盜難等ノ總務ヲ期スヘシ

五予ハ三四〇許田橋ニ在リ爾後部隊ハ先頭ヲ前進ス

大隊長代理 大門 中尉

一中隊ハ三三〇整列三三〇大隊行軍ニ依リ許田ヲ發シ谷茶

ニ向ヒ前進ス

部隊日直將校 陸軍少尉 義井 靜夫

受
井
命
第
六
號
領

行
軍

勤
務

人員

五月八日雨曇
沖繩縣國頭郡
恩納村字合茶
受
井翰命
第四號

將校以下一三二名

- 一、〇五三〇谷茶ニ到着該營者指示其基ヲ指營者入
- 一井上隊輸送命令第四號要旨 十月八日 谷茶
- 一大隊ハ現在地ニ於テ大休止セトス
- 二各隊ハ間片中尉ニ區署ヲ受テ速カニ休養スルニ
- 三本日ノ日朝点呼ハ八三〇日夕点呼ハ一八三〇トス
- 四、緊急集合場ハ公會堂ヲ先頭トシ道路上ニ集合スルニ
- 五、空襲ニ際シテハ休養地附近ノ地形地物ヲ利用シ極力ニ
- 疎開スルニ
- 六、MG一小隊ハ對空射擊部隊トナリ戰鬥準備ヲナシ置クヘシ
- 七、各隊ハ速カニ兵器被服ヲ手入ヲ完了シ次期行軍ノ準備ヲ全ケテシムヘシ

受領
井翰命
第四號

- 一、井上隊輸送命令第四號要旨 十月八日 谷茶
- 一、大隊 五月九日 谷茶 山田 長濱道ヲ渡
- 次ニ向テ前進セトス
- 二、各隊ハ〇四〇迄公會堂ヲ先頭トシ建制順ヲ行軍隊
- 一、形ニ集合スルニ
- 三、車輛部隊ハ極力本隊ニ追従シ先ツ山田ニ向テ前進スル
- ニ(但シ將積載ニ此車輛ヲ除ク)
- 四、山田ヨリ爾後田中伍長ヲ區署ヲ以テ本隊ト別レ喜名ニ度
- 喜味ヲ經テ渡慶次ニ至ルヘシ
- 五、各隊ハ出發ニ當リ防諜火災盜難ノ絶滅ヲ期スルニ

受領
第五作命
第八五號

勤務員

6. 間片中尉宮崎軍曹炊事勤務者ハ速ニ渡慶次ニ至リ部隊到着後ハ炊糞ニ支障ナキ様準備スヘシ

一 獨立混成第五聯隊作命 第八五號要旨

一 敵機動部隊來襲ニ對シ

本八日三三〇南西諸島ニ因號戰備ヲ令セラル

二 聯隊ハ對空戰備ヲ強化セントス

三 諸隊ハ對空警戒ニ至嚴チテレルト共ニ人員資材被害ヲ絶無ナラシムヘシ

四 移駐中、部隊ハ晝間ニ於テ對空遮蔽ニ徹シ對空警戒ヲ至嚴チラシムヘシ

五 残留諸隊ハ對空警戒ヲ至嚴チラシムルト共ニ人員資材、待避ヲ周到ニシ敵空爆ニ對シ被害ヲ絶無ヲ期スヘシ

日直下士官 陸軍軍曹 伴 作次

將校以下一三二名

行軍

一 中隊ハ宿營地谷奈ヲ足シテ撤集整頓シ大隊行軍後ハ

〇二〇〇出發〇六二〇山田ニ到着第一小隊主力(神谷少尉以下三五名)ハ新任務ニ基キ中隊主力ト分離山田ニ駐ス

中隊主力(第一小隊欠)ハ大隊長指揮下ヲ離レ義井少尉指揮シ前進〇八〇〇全員事故大欠地谷村宇石嶺久

得ニ到着設營者、指示ニ依リ宿營ス

二 中隊ハ宿營地到着後兵器被服ハ全入ヲ實施ス

井上隊作命 第四三號要旨 十一月九日〇六〇〇

一 大隊ハ本日以降中頭郡座喜味附近一帯ニ宿營ス

二 大隊ハ夫レ設營者ノ指示ニ基キ宿營スヘシ

三 左記宿營地ニ宿營スル部隊ハ本日朝食後速カニ該地ニ到リ配備ニ就クヘシ

△60高地 山田 第五中隊

受領
第四作命
第四三號

受領
井作命
第四三號

4. 宮崎軍曹ハ各分七隊ハ糧秣交附及本日以降主力ノ
給養ニ關シテ處置スヘシ

5. 空襲ニ際シテハ速カニ戦斗配備ニツク

大隊長 井上一大尉

井上隊作命 第四三號要旨 十二月九日

1. 旅團ハ敵沖繩北同中飛行場占領ヲ妨害スルト共ニ狀
況ニ依リ軍主力ノ中頭地區出雲ノ支撐トナリ又各種新致

ヲ盡シ敵主力ノ上陸点ヲ軍主力方面ニ誘致スル如ク
行動欺騙ス

2. 大隊ハ北地區隊トナリテ主力ヲ以テ座喜味北側高地
ヲ占領シ所在部隊ト緊密ニ協同シ以テ敵ノ沖繩北系
飛行場占領ヲ妨害ス尚一部ヲ以テ喜名東方高地ヲ占
領シ旅團主力進出ノ爲ニ據点トナシ

山田隊ハ... 陽動欺騙セントス

3. 第五中隊(欠一隊)喜名東方高地ヲ堅固ニ長領シ
以テ狀況ヨリ旅團主力進出ノタメ據点ヲ形成スヘシ

4. 神谷小隊ハ△△ニ一隊分陣地ヲ山田附近ニ前進陣地東
占領シ海上警戒監視陽動欺騙ニ任ス

5. 予ハ渡慶次北地區隊本部ニ在リ
乙號戰備ト共ニ座喜味北側戰斗指揮所ニ至ル

北地區隊長 井上大尉

中隊命令 第一號 十二月九日

1. 中隊ハ主力ヲ以テ本日以降中頭郡石嶺久得附近ニ一部ヲ
以テ山田附近ニ宿營ス

2. 各小隊ハ關島曹長ノ指示ニ依リ夫々宿營スヘシ

下達命令

下達命令

3. 給與開シテハ本日一〇〇〇部隊本部ヨリ三日分ノ糧秣ヲ
追送セラル北野軍曹ハ爾後給與ニ關シ速クニ部隊本
部ト連絡スヘシ
十二月九日

中隊命令 第二號

ハ大隊ハ北地區隊トナリ主力ヲ以テ座喜味北側高地ヲ占
領シ所在部隊ト緊密ニ協同シ敵軍繩北飛行場
占領ヲ妨害ス

2. 中隊ハ主力ヲ以テ井作命第四三號ニ依リ喜名東方△60高
地附近ヲ一部ヲ以テ山田附近ニ前進陣地ヲ築固ニ占領
ス

3. 第一小隊ハ△220附近ニ小隊分陣地ヲ山田ト眞菜田
塩屋附近ニ各前進陣地ヲ占領シ海上警戒監視並陽
動欺騙ニ任スヘシ

將校以下一三二名

一分隊長以上ハ約一〇〇〇間△60高地附近地形並陣地ノ偵察ヲ
實施ス

2. 兵ハ兵器被服ノ手入各宿舍附近ノ環境整理ヲ實施ス
中隊日直將校 陸軍曹長 保田 宗 作

將校以下一三二名

1. 一〇八〇ヨリ各宿舍毎ニ内務實施〇九〇ヨリ内務検査ヲ實施ス
二一三〇ヨリ中隊長以下五八名△60高地ニ陣地ヲ經始ヲ實施シ
一六三〇帰宿ス

三二七三〇大隊本部ヨリ自轉車二輛貸與セラル
中隊日直將校 陸軍曹長 關 島 武 男

人員

十二月十日晴
石嶺久得

行動

人員

十二月十日晴後曇
石嶺久得

行動

兵器

勤務